

国内の外食産業6分野64業態を調査

2012年市場見込

ファストフード分野は前年比3.1%増の3兆57億円

前年にマイナスだったハンバーガー、チキンなどが回復

病者・高齢者食宅配は前年比20.0%増の870億円

市場への新参入、既存企業の拠点新設などがプラス要因

ハンバーガーのモーニングタイムの売上構成比は12.0%

各チェーンでモーニング営業を強化

総合マーケティングビジネスの株式会社富士経済（東京都中央区日本橋小伝馬町 社長 阿部 界 03-3664-5811）は、2012年5月～9月にかけて国内14分野128業態の外食市場の調査、外食企業の事例研究、外食産業の都道府県別マーケットポテンシャルの分析などを行い、その結果を4回に亘り報告する。

今回は、テイクアウト、料飲店、ファストフード、ホームデリバリー・ケータリング、レジャー施設、交通機関の6分野64業態の外食市場について調査を実施し、その結果を報告書「外食産業マーケティング便覧 2012 No.1」にまとめた。

今後、ファミリーレストラン、喫茶、西洋料理、日本料理、東洋料理、エスニック料理、給食、宿泊宴会場の8分野の調査結果を「同 No.2」、外食産業の企業研究、海外における外食産業の動向を「同 No.3」、外食産業のエリア別分析結果を「同 No.4」にまとめる。

<調査結果の概要>

分 野	2011年	2012年見込	前年比
テイクアウト	6兆 157億円	6兆1,690億円	102.5%
料飲店	5兆9,584億円	5兆9,380億円	99.7%
ファストフード	2兆9,148億円	3兆 57億円	103.1%
ホームデリバリー・ケータリング	1兆1,546億円	1兆1,608億円	100.5%
レジャー施設	9,903億円	9,939億円	100.4%
交通機関	938億円	944億円	100.6%

テイクアウト

2011年のテイクアウト市場は前年比1.9%増の6兆157億円となった。2012年は前年比2.5%増の6兆1,690億円が見込まれる。

景気の後退により外食を控える消費者を取り込んでいる。最近では量販店やCVSが低価格惣菜に注力しており、特に震災のあった2011年は自家調理が敬遠されたことから、需要が拡大した。

量販店・CVSを中心とした小売店と専門店間のデリカやスイーツでの競争が2012年以降も過熱する見通しである。店舗数で圧倒的に有利であるCVSはスイーツのシリーズ化、チルド寿司の販売開始等、新規性の高い取組を進めていることから実績を拡大させ、今後も市場を牽引していくと予想される。

料飲店

2010年から2011年にかけて均一価格型居酒屋が、料飲店の他業態からの転換があり急激に店舗数を増やしたものの、若者のアルコール離れや家飲み志向によって市場縮小が続いている。

2011年は、東日本大震災の影響による自粛ムードによって宴会需要が大幅に減少し、特にアップー居酒屋が大きな打撃を受けた。一方で、低価格型居酒屋は手軽な食事需要を捉えて比較的健闘したが、やはり減少となっている。

ファストフード

ファストフードは、外食市場全体が低迷する中であって拡大を続ける有望市場であり、2011年こそ低い伸びに留ったものの、2012年は前年にマイナスだったハンバーガー、チキン、アイスクリームがプラスに転じ、市場全体は前年比3.1%増の3兆57億円が見込まれる。

ホームデリバリー・ケータリング

2011年は上位企業の出店攻勢が続く病者・高齢者食宅配が大幅伸長し、トップシェアの「釜寅」の伸長や新規チェーンの参入が見られた宅配釜飯が増加に転じている。しかし、最大規模の仕出し弁当・ケータリングをはじめ、宅配ピザ、宅配ずしなどが震災の影響や不採算店舗の閉鎖によって売上が振るわなかったことから、全体では前年割れとなっている。2012年は上位チェーンが出店攻勢している宅配ピザ、宅配中華料理もプラスに転じると見られ、市場は2011年を上回る1兆1,608億円が見込まれる。

レジャー施設

2011年の市場は、震災により一時休業や営業時間短縮を行わざるを得なかったため縮小した。しかし、2012年はこれらの影響から回復傾向にあるため、前年比0.4%増の9,939億円が見込まれる。

交通機関

外国人観光客数が震災前の水準まで戻りつつあることから、機内食や客船食堂の需要が回復している。2012年の市場は前年比0.6%増の944億円が見込まれる。2012年は、駅構内飲食店では、2月に「Echika fit 東京」や6月に「Echika fit 銀座」のオープン、有料道路SA・PAでは3月に開通した新東名高速道路の「NEOPASA（ネオパーサ）」と大型施設が次々と開業しており実績拡大に繋がっている。

注目市場

ハンバーガー

2011年	前年比	2012年見込	前年比
6,973億円	98.5%	7,215億円	103.5%

ハンバーガー市場は、2004年以降拡大が続き、ファストフード分野をリードしてきたが、2011年は8年ぶりのマイナスとなった。これは市場を牽引してきた「マクドナルド」の契約終了等閉店数が多かったことなどが影響している。

2012年は「マクドナルド」が大型店舗を中心に出店を増やしていることや、「バーガーキング」がFC展開の加速と宅配にも参入したこと、2011年12月に再上陸した「ウェンディーズ」がフォアグラ等高級食材を使用した今までにない商品を展開し注目を集めていることなどから、市場は再びプラスに転じると見られる。

～ 時間帯別市場構成（2012年見込） ～

モーニング	ランチ	アイドルタイム	ディナー
12.0%	60.0%	18.6%	9.4%

ハンバーガー市場ではランチタイムが売上の60.0%を占める集客のピークである。イトインの他、テイクアウト需要も多く、各チェーンは専用メニューを展開している。多くのチェーンがモーニングタイム専用メニューを展開しており、その強化が喫茶店等、他業態からの需要獲得に繋がっている。

牛丼

2011年	前年比	2012年見込	前年比
3,454億円	105.5%	3,660億円	106.0%

牛丼市場は日常食として需要が安定していることに加え、低価格が消費者の支持を集め、新たにファミリー層などを取り込んで拡大している。

2010年は、上位チェーンが意図的に出店を進めた上、ほぼ毎月のように期間限定割引キャンペーンを実施したことで、市場は前年比11.7%増となった。

2011年は、一部の上位チェーンの売上に伸び悩みが見られた一方で、「すき家」「松屋」が早いペースで新規出店を行ったことから、2桁伸長の前年程ではないものの市場は前年比5.5%増と拡大した。

2012年は、上位チェーンが積極的な出店と期間限定値引きキャンペーンを行って売上を伸ばす中、前年に市場参入して、店舗数を増やしている「東京チカラめし」の実績が加わることから、前年比6.0%増の3,660億

円が見込まれる。

～ 時間帯別市場構成（2012年見込）～

モーニング	ランチ	アイドルタイム	ディナー
4.9%	40.1%	10.1%	45.0%

小数第二位で四捨五入しているため100%にならない。

食べ応えのある肉類を扱った丼物メニューが中心であるため、需要はランチタイムとディナータイムに集約される。一方、多くのチェーンがモーニングタイムにも注力しており、朝食専用の定食メニューを取り揃えている。

病者・高齢者食宅配

2011年	前年比	2012年見込	前年比
725億円	115.8%	870億円	120.0%

病者・高齢者食宅配市場は、外食市場が全体的に低迷している中、急成長を続けている数少ない市場である。近年の少子高齢化社会の進行に伴い、トップシェアのワタミタクシヨクをはじめ、上位企業が軒並み出店攻勢や配食エリアの拡大、エリア内の利用者の増加によって伸長を続けていることから、2011年の市場は前年比15.8%増となった。

2012年に入り日清医療食品が新たに参入を果たすなど、依然として市場は成長の余地も残されていることから、今後も拡大を続けていくと予想される。

<調査対象> 報告書「外食産業マーケティング便覧2012 No.1」掲載の6分野64業態

ファストフード	ハンバーガー、チキン、ドーナツ、サンドイッチ、クレープ、アイスクリーム、ギョーザ、ラーメン、カレーショップ、ステーキ、立ち食い・セルフ式そばうどん、クイックパスタ、回転ずし、たこ焼き・お好み焼き類、牛丼、天丼、海鮮丼、とんかつ・かつ丼、ピビンバ、定食チェーン
テイクアウト	テイクアウト弁当・惣菜、デリカショップ、おにぎり、テイクアウトずし、ベーカリーショップ、チェーン系スイーツ店（洋生菓子）百貨店スイーツ店、シュークリーム専門店、百貨店デリカ、CVSデリカ、量販店デリカ、ホテルデリカ、たい焼き専門店
ホームデリバリー・ケータリング	宅配ピザ、宅配ずし、宅配中華料理、宅配釜飯、FR宅配、病者・高齢者食宅配、仕出し弁当・ケータリング
料飲店	居酒屋・炉端焼、アッパー居酒屋、低価格型居酒屋、均一価格型居酒屋、やきとり専門店、ビアレストラン、ディスコ・クラブ、カフェバー・ショットバー、スナック・クラブ・パブ
交通機関	駅構内飲食店、列車内食、機内食、有料道路SA・PA、客船食堂
レジャー施設	ゴルフ場、スキー場、健康ランド・スーパー銭湯、レジャーランド、野球場、映画館・シネコン、フードテーマパーク、ギャンブル場、カラオケボックス、複合カフェ

<調査方法>

富士経済専門調査員による調査対象企業及び関連企業・団体等へのヒアリング及び関連文献、社内データベースを併用

<調査期間>

2012年5月～6月

以上

資料タイトル	：「外食産業マーケティング便覧2012 No.1」
体 裁	：A4判 236頁
価 格	：書籍版90,000円（税込み94,500円） PDF/データ版100,000円（税込み105,000円）
調査・編集	：富士経済 東京マーケティング本部 第一統括部 第一部 TEL:03-3664-5821 FAX:03-3661-9514
発 行 所	：株式会社 富士経済 〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町2-5 F・Kビル TEL:03-3664-5811（代）FAX:03-3661-0165 e-mail:info@fuji-keizai.co.jp この情報はホームページでもご覧いただけます。 URL： http://www.group.fuji-keizai.co.jp/ https://www.fuji-keizai.co.jp/